

学報

SEIREI CHRISTOPHER
UNIVERSITY REPORT

2009.5.1
Vol.33

2009.5.1
Vol.33

2009.5.1
Vol.33

聖隷クリストファー大学 学報

INDEX	PAGE
健康教室便り	1
ボランティア通信	2
[特集] 新入生セミナー	3
私の教育・研究	5
新任教員紹介	6
聖書のこぼれ	6
2009年度公開講座一覧	7
クリストファーニュース	8
後援会から	9
お知らせ	10



4月6日(月)～8日(水)の3日間、「新入生オリエンテーション」「在学生ガイダンス」「新入生セミナー」を行いました。新入生対象の「新入生オリエンテーション」では教職員から教育課程や履修登録、学生生活等について説明、「新入生セミナー」では上級生企画の趣向を凝らしたプログラムが実施されました。最初は緊張していた新入生も先輩や教員達との交流により自然な笑顔で大学生活のスタートを切りました。

保健医療福祉の探究
聖隷クリストファー大学
〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453 <http://www.seirei.ac.jp>

●学友会会長

小川 萌 看護学部3年次生

業・修了 夢に向かってはばたけ!!
聖隷クリストファー大学 卒業パーティ



学友会
活動を
振り返って

今年度の学友会活動を振り返ると、「学生によって創られる学友会」を意識した活動ができたと思います。スポーツ大会ではアンケートで寄せられた種目の希望や意見・要望を内容に反映させることができました。また、今年度新たに設置した目安箱に届いた有意義な意見・要望を基に、学生にとってよりQOLの高い大学生活を目指して活動することができました。例えば自転車を使用する学生から多く意見が寄せられた駐輪場所への配慮に関しては、2009年度から学生の希望を取り入れる形で改善されつつあります。また、学部間の交流が少ないという意見に応えるため、より多くの学生に参加してもらえるような場所に行事等の案内を掲示し、スポーツ大会では違う学部・学年同士が対戦するようにトーナメントを組むなど、学部・学年間の交流が深められるように工夫することができました。QOL委員会は行事の打ち合わせや反省会など、話し合いを大切にしてきました。来年度役員となる後輩たちには、良い点はもちろん反省点も改善策を含めて引き継ぎ、それを活かして学友会の中心として活躍してくれることを期待したいと思います。これからも、学生全員の意思、協力、思いやりによって創り上げられる学友会活動であることを願っています。

卒業パーティ2008

3月16日(月)アクティビティ浜松中ホールでの卒業式・修了式の後、グランドホテル浜松にて卒業パーティ(後援会・学友会・同窓会・大学共催)が行われました。様々なお祝いの企画の最後には、聖隷の精神を卒業生から在校生に引き継ぐセレモニーとして「キャンドルリレー」が行われました。卒業生・修了生、関連施設・病院からの来賓の方々、保護者の方々を含め、総勢約840名が参加し、盛大なパーティとなりました。



卒業生のピアノとトランペットによる「トロイメライ」 恒例の手話歌。今回は「song for～」



看護学部教員によるハンドベル演奏。思い出の写真も。



フィナーレのキャンドルリレー

「私が言ってきたことは、絶えず前進しろ。日本の社会、あるいは世界、アジア、アフリカを見て、さらに何をやるべきか。これはキリストが聖書のなかで『貧しい者は、常にあなた方と共にある』と書いているからです」と、揺るぎないキリスト教信仰を支えに、保健医療福祉の領域で事業を展開した、聖隷グループの創始者であり、本学の創始者である長谷川保の軌跡をたどりました。本書では、特にホスピス運動の祖としての長谷川保に焦点をあて、その源が「死の病」とされた結核患者に対する無給かつ無休の、徹底した1対1の療護生活にあることに注目しました。もとより、今日の社会ではおおよそ考えられないようなひたすらな献身ですが、絶えず聖書の教えを仰ぎながら、社会から排斥され続けた当時の結核患者に、死の瞬間までより深い通じた姿は、決して今日の療護や介護の実践と無縁ではなく、その原点を指し示すものだと思います。彼から私たちが学ぶことは、あまりにも多いのです。



小松 啓 著
社会福祉学専攻科長
教授

シリーズ福祉に生きる 52
長谷川保

小松 啓 著 / 2008年11月
大空社

読者アンケートのお願い

裏面の質問にご記入いただき、
ポストに投函してください。

郵便番号 433-8790
静岡県浜松市北区三方原町3453
聖隷クリストファー大学
総務部 行

料金受取人郵便
浜松北支店 承認
147
差出有効期限
平成22年10月31日まで
切手不要

名前 _____

住所 _____

電話 () _____

E-mail _____

区分 保護者 その他 ()

ボランティア 通信

ホスピス学生ボランティア「マナの会」

私たちの大学は、日本で最初のホスピス病棟（1981年）を持つ聖隷三方原病院（静岡県浜松市北区）に隣接しています。ホスピスとは、悪性腫瘍や、エイズの患者さんの肉体的な苦痛を取り除くための治療をするだけでなく、精神的な苦痛、孤独、不安などを軽減し、患者さんやご家族とともに、生命の意義を考へつつ、最後まで人間らしく、尊厳を持って生きぬくことができるように援助していくことです。そのためホスピスでは、医師や看護師だけでなく、ボランティアたちも、患者さんの日常生活の質の向上には欠かせない存在です。

聖隷クリストファー大学のクラブである「マナの会」はホスピス病棟に入院していらっしゃる患者さんやご家族の方たちの日常生活をできるだけ快適に、そして豊かになるように援助していくためのボランティア活動を行っています。ホスピスにおいて、定期的に学生がボランティア活動を行っているのは、全国的にも例がないのではないかと思います。

私たちの会では、毎週土曜日と日曜日に学生が4人〜6人ほど入り、患者さんへの配茶、散歩、洗濯や話し相手をしたり、「喫茶マナ」を開いて、コーヒー、紅茶を提供しています。今まであまり、コーヒーを召し上がっていなかった患者さんやご家族にも喜んでいただいています。また、クラブでは、毎月二回集まって、病室で使う大型のカレンダーを手作りしています。四季折々のイラストを入れた大判のカレンダーは、患者さんに大変好評です。夏には花火大会、冬にはクリスマス会なども開催して楽しい時間を過ごしていただくお手伝いをしています。時には、亡くなられた患者さんの「お別れ会」

に参加して、患者さんとのホスピスでの日々をいとおしみ、患者さんのご家族と悲しみ、寂しさを分かち合う、貴重な体験を与えられています。学生は、自分の目で、ホスピスケアについて学び、人間が人間として豊かに生きていくのに何が大切なことなのかを活動を通して日々学んでいます。

活動の記録は、メンバーリストで会員に携帯配信され、活動の様子や、感想を全会員で分かち合っています。左は、2007年11月25日（日）に活動した会員の配信です。

「配茶の際、ある利用者さんが私に両手を差し出され、思わず握ってしまいました。利用者さんも握り返して下さいました。そのままだよ話をすると、微かな声で『そう』と答えて下さいました。ほんのわずかな時間ですが利用者さんの温もりや生命力を感じる、貴重な時間となりました。言葉では伝えられない何かを感じました。」

「マナの会」は、地域の文化活動や奉仕活動などに積極的に取り組んでいる青少年や団体の活動を奨励、賞賛するため浜松市が設けている「青少年の表彰」で「善行賞」を受賞しました。2007年12月には朝日新聞で紹介されました。

幸せな気分になれる瞬間です。私たちが、実際に患者さんから、「いのちのメッセージ」をいただいていると思える瞬間です。若い学生たちが、真摯に「生きる」ということの奥深さを考える貴重な機会であることをこのメールが伝えてくれます。

マナの会は、2003年春に平野美津子教授の呼びかけで正式発足し、今年で6年目を迎えます。会員は男女、1年生から4年生まで69名ですが、活動は1、2年生を中心に行っています。所属学部は、看護、社会福祉、リハビリテーションと様々です。



「マナの会」は、地域の文化活動や奉仕活動などに積極的に取り組んでいる青少年や団体の活動を奨励、賞賛するため浜松市が設けている「青少年の表彰」で「善行賞」を受賞しました。2007年12月には朝日新聞で紹介されました。



※文章は2008年9月に書かれたものです。

マナとは.....

モーセに引きつられてエジプトを脱出し、荒野で飢え乾いていたイスラエル人たちに天から与えられた食べ物です。そして、イエスは、「神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」(ヨハネ6章:33)「私は命のパンである」(私は天から下ってきた生きたパンである。それを食べるものは、いつまでも生きる)(48-51)と語っています。私たちの活動が、終末期にある患者さんやそのご家族の皆さんにとって「命のパン—生きる力」になればという願いで「マナの会」と名づけられました。

健康教室 だより

健康管理センターでは学生の皆さんの健康を支援するため「健康教室」を開催しています。今回は2008年度に実施した「マンスリーピクス(月経体操)」と「食育」について報告します。

マンスリーピクス教室

自分らしく素敵に生きるため

この教室は「学生が感じる月経に対する問題にどのように対応していくか」という点にポイントを置きました。月経の随伴症状で健康管理センターに相談に訪れる女子学生は多く、4月の健康調査「月経に関する悩みがありますか」という質問に対しても37.5%の女子学生が「悩んでいる」と回答、そのうち63.7%が「月経痛」に関するものでした。この現状は当人の学業に影響を与えていることが予測されます。

そこで、月経を中心に女性の体のメカニズムを学び、月経随伴症状に対応する力をつけるために、月経教育プログラムに基づいて「マンスリーピクス教室」を10回コースで実施しました。さらに大学生は様々な環境の中で月経随伴症状と自尊感情が互いに影響していることが考えられるため、身体面のみではなく、「より自分を愛することができるように」という目的で、自尊感情を向上させるためのエクササイズも取り入れました。



エクササイズの様子

■「マンスリーピクス」プログラム(秋実施の例)

1回	45分	1.目的説明 2.継続の意思確認 3.基礎体温、PSMメモリー記録方法説明
2回	45分	1. PSMメモリーの記録方法の確認とフォローアップ 2. 参加への動機付けの喚起
3回	45分	1.月経のメカニズム 2.月経、月経周期などに関する定義
4回	30分 個別面接	1.生育歴、月経有無の確認 2.メモリーの記録の理由と問題点の把握、解決課題の明確化と目標の設定
5回	45分	1.食生活と月経:食生活を見直そう 2.私の食事の改善点
6回	45分	人間発達における女性の特質と月経
7回	45分	月経に関する考え方の変遷
8回	45分	1.機能性月経困難症の発生機序 2.月経困難症の診断と治療
9回	90分	実習:1.月経痛体操 2.自己効力測定、実施計画作成
10回	45分	ディスカッション:1.教室に参加して 2.女性にとって月経の意義 3.効果判定、月経イメージ変容

・楽しく学べた ・自分の体を知ることができた ・月経に関する知識を得て自分は正常であることを知った ・自分自身と向き合うことができた・エクササイズを通して自分の思っていることを相手に伝えたり、気付かなかった自分を知ることができた ・新鮮な気持ちで皆からの言葉を受け入れることができた

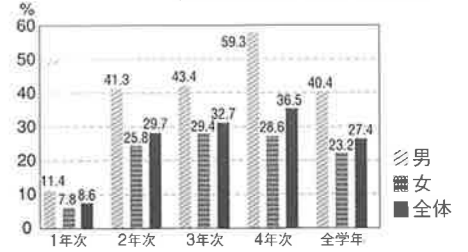
受講した学生の感想

食べながら学ぶ健康教室



大学生の日常生活はサークル、レポート、アルバイト等で夜更かしをして生活習慣や食生活が乱れやすくなっています。2008年度の調査では本学の学生の52.4%が一人暮らし。また朝食を週3日以上とらない学生は大学全体で30%弱となっています(グラフ参照)。学生たちが大学生活を心身ともに健康に過ごし、自己の持っている能力を充分発揮し、自分の健康は自分で守り、精神的にも安定した学生生活を送れるよう食生活から支援することを目的に「食育」をテーマに健康教室を行いました。

■朝食を週3日以上とらない学生 (聖隷クリストファー大学2008年度)



食事バランスガイドによる「バランス食」と「自分に合った適正カロリー」を学び自分の食事及び生活習慣を振り返りました。さらに、グループワークで、現在の「食事及び生活習慣」を続けると、20年後30年後の自分はどのようなか考え、講話とグループワークをとおして自分の食事及び生活習慣を見直し、気付いたことに対して自分自身の行動目標を立てました。この教室の特徴として「食べながら学ぶ」ということで調理実習以外でも食事を用意しました。学生が自分で食事作りができるように、安価な材料で、簡単に調理でき、バランスを考えた食事を試食しました。さらに、地域の「浜北食育の会」の方をお招きして、交流しながら調理実習を行い、実際に包丁の使い方から食材の個性を生かした調理方法等のご指導をいただきました。

現在の自分の健康を考えた時:「だるい」、「疲れやすい」という理由で自分は健康ではないと感じていました。

最近の食生活について:「食品バランス面の偏り」、「欠食」、「不規則な食事時間」、「食品の数が少ない」、「甘い飲み物が多い」などの反省点があげられました
自分の食生活を振り返って:「野菜が不足している」「主菜と副菜をバランスよく食べれば主食を沢山食べなくてよい」などの気付きの音が聞かれました。

第1回教室受講後自分で食事作りをしながら:「野菜、果物、魚が不足していることが分かったので、工夫してメニューに加えるようにした」との音が聞かれ、不足しているものを補うような食生活の工夫が見られました。

教室終了時:「自分に合った摂取カロリーが理解できた」、「ストレスが少なくなった」、「夕食を食べる時間が早くなった」

学生の気付き

◎健康管理センターより

「マンスリーピクス」では、プログラムの中間と最終で行った自尊感情の尺度調査で全員後半の方が点数が上昇し、回を重ねるごとに参加者の表情もにこやかになっていると感じました。「食育」では、主体的な自分の健康管理から始めて、周りの人の健康も考えられるような学生が少しずつでも増えるように願って行っています。健康教室は自分の健康への意識を高めるとともに、保健医療福祉の専門職を目指す学生の皆さんにとって大きな学びとなります。課題は参加者が少ないこと...今後も皆さんの要望や時代の流れに即したテーマで行いますので、ぜひ健康教室をご活用ください。

相談コーナー



新入生がリラックスできるように学生ホールにお茶とお菓子をを用意して、新入生の皆さんからの疑問・質問に先輩達が一つ一つ丁寧に、優しく、フレンドリーに答えました。内容は、履修登録のこと・サークルのこと・大学生活のこと等々。最初は履修登録が一番気になると考えて、2・3限の履修登録オリエンテーションの後の4限目に「相談コーナー」を行うように工夫しました。

新入生の感想は？

※実施後アンケートより

- ・履修登録について先輩と一緒に考えてくれてうれしかった。
- ・経験に基づいた話が聞けてとても参考になった。
- ・先輩が積極的に話しかけてくれたので、自分も安心して話すことができた。
- ・先輩が不安を取り除いてくれた。

参加型イベント

最終日は体を動かしながら、新入生、上級生、そして先生方と入り混じって楽しく交流しました。



先生も参加。パン食い競争☆ みんなの心を一つにバレーボール☆

社会福祉学部

セミナープログラム

4/6月 セッション①

●キャンパスツアー

4/7火 セッション②

●相談コーナー

4/8水 セッション③

●参加型イベント

◎浜松市雄踏総合体育センター
午前/ボールリレー・借り物競走
午後/名札探しゲーム・3択クイズ
※サプライズで手話披露あり!

舞台裏

(前日準備の様子)

セミナー前日。学生ホールでは先輩たちが準備を進めていました。おつかれさまでした!



新入生の名札も手作りです。

リハビリテーション学部

理学療法学専攻(PT)バレーボール大会



作業療法学専攻(OT)クイズ&上級生との懇談会



言語聴覚学専攻(ST)デザート作り&座談会



答えを探せ!
学内ウォークラリー

(全専攻)



まずは問題を見て...



みんなで探検!



答えはこちら! 詳しく知りたい方は聖隷歴史資料館へどうぞ!
(大学2号館2階にあります)

セミナープログラム

4/8水

午前/専攻別オリエンテーション
(PT)バレーボール大会
(OT)クイズ&上級生との懇談会
(ST)デザート作り&座談会
午後/学内ウォークラリー

問題
歴史資料館には聖隷学館にとって偉大な方の骨殖本があります。その人物とは誰でしょうか?

学内ウォークラリーは、学内のアピールポイントに関する問題の答えを探る形式で行いました。

問題は上級生の手作り。先生と上級生が新入生グループと一緒に学内を回って答えを探しました。

クイズ結果集計中には上級生によるお笑いライブ(?)も披露。新入生に笑顔のプレゼントです。

その他の問題は
●PT/OT/ST3専攻の英語正式名称は?
●食堂の食券の合計金額はいくら?
●3号館1階の治療室にあるベッドの総数は? などなど...



特集

新入生セミナー



毎年4月に新入生を迎えるにあたり、初年次教育の一環として「新入生セミナー」を開催しています。学生同士や教員との交流を通して、新入生が大学生活に円滑に適応できるよう、各学部がオリジナルのプログラムを用意します。企画や準備は先輩である上級生が中心。2009年度「新入生セミナー」の一部をご紹介します。

看護学部

上級生からのメッセージ



セミナー初日はまだみんな緊張気味!



クリスピーパー

(通称:クリペ)

セミナーの3日間、新入生が肌身離さず持っていたのがコレ、先輩たちによる手作り情報誌です。大学生活のことから一人暮らしのアドバイスまで、充実したキャンパスライフに役立つ情報がいっぱい!!

アドバイザー教員が同じである新入生・上級生が1つのグループになって、先輩から新入生の皆さんに、大学生活全般のアドバイスをしました。



実習ユニフォームファッションショー

実習着の正しい着方を先輩がレクチャーしました。正しい着衣ができていないのは誰かな? 新入生の皆さん、もうわかりますね? 実習時の身なりはきちんと清潔に。



セミナープログラム

4/6月 セッション①

●上級生からのメッセージ(1)
(アドバイザーグループ別)

4/7火 セッション②

●上級生からのメッセージ(2)
●実習ユニフォームファッションショー
(正しい着衣の仕方をご紹介します)
●大学&浜松を知ろう!
(学内・浜松市内の紹介ビデオ上映)

4/8水 セッション③

●運動会 ◎浜松市引佐総合体育館
午前/ドッジボール
長縄
午後/2人3脚
障害物リレー



運動会も盛り上がりました!

大学&浜松を知ろう!



大学内の施設を知ると同様、浜松以外出身の方にとってはこれから4年間を過ごす浜松という土地を知ること重要ですよ。大学も浜松もとってもいいところですよ!先輩たちが実際に各所を訪れて撮影&編集したビデオを紹介しました。

看護学部 稲垣健治教授が最終講義を行いました

3月10日(火)、2008年度末で定年退職された看護学部 稲垣健治教授の最終講義を行いました。

稲垣教授は1992年、聖隷クリストファー看護大学(現聖隷クリストファー大学)開学とともに就任。17年にわたり、本看護学部の科学系の科目などにおいて教鞭を執られました。学生からの信望が厚く多くの学生に慕われ、今回の最終講義においても、8年前に卒業した卒業生ら5名が北九州市や横浜市など遠方から駆けつけました。

最終講義の演題は「回顧する1970-2008」。物理系薬学・無機化学や看護教育分野において取り組まれた研究やその成果、研究員として赴いたアメリカとオランダでの留学生生活、本学の教員生活などを振り返り、教育者として「自身が歩まれた道を話されました。そして最後に「健康に恵まれた学生に囲まれて幸せでした。いろいろな人に出会えて幸せでした」と長い間ありがとうございました。



講義前に行われた卒業生による合唱 稲垣先生への花束贈呈

「ホームカミングデー2008」3学部合同で開催しました

2007年度末に最初の卒業生を送り出したリハビリテーション学部も加わり、2008年度ホームカミングデーは3学部合同で、「看護・社会福祉リハビリテーションの専門職連携」をテーマに開催しました。

卒業生や退職された先生方など約170名、学内教職員も合わせて総勢300名が参加。卒業生の中には20年ぶりに母校を訪ねてくださった方や、長野県松本市から浜松市にいる同級生を訪ねてこられた方、あるいは卒業したばかりの方など様々でした。久しぶりの再会に歓声がわき、中には抱き合ったり喜び合う卒業生の姿も見られました。

プログラムはランチパーティに始まり、本学大学院・川村佐和子教授のIPW(専門職連携)に関する講演から、卒業生や退職された先生方など約170名、学内教職員も合わせて総勢300名が参加。卒業生の中には20年ぶりに母校を訪ねてくださった方や、長野県松本市から浜松市にいる同級生を訪ねてこられた方、あるいは卒業したばかりの方など様々でした。久しぶりの再会に歓声がわき、中には抱き合ったり喜び合う卒業生の姿も見られました。

たぐさんの皆様のご参加ありがとうございました。2009年度は11月21日(土)開催予定です。より充実した企画をご用意してお待ちしておりますので、またぜひご参加ください。



テーマ別多職種交流会 卒業生による合唱 ランチパーティ

リハビリテーション学部作業療法専攻生がシンガポールにて初めて臨床実習を行いました

2009年2月28日～3月15日の2週間、第1回国際作業療法実習が行われました。希望者の中から面接と小論文の選考を行い、2名の実習生を派出。シンガポール国内の3ヶ所の施設にて地域における作業療法を体験しました。また、筋ジストロフィーの支援団体に出席するなど、幅広い実習に取り組みました。

◆「実習参加学生の感想」

◆中澤明日香さん(実習参加時3年次生) シンガポールに向かう飛行機の中では不安だらけでしたが、現地に到着してからはホストファミリーや実習先のアドバイザーの方からどんな質問にも細かく答えていただき、最初の不安は吹き飛びました。実習先では様々な作業療法の視点を知り、とても充実した毎日、実習参加を決断して本当に良かったと思います。私が1年次生の時にシンガポール研修に参加した際NYPの学生だった人が、今回実習先で作業療法士として仕



リハビリテーション学部(1年次生アドバイザー教員を紹介)

入学式後に初めて保護者ガイダンスを行いました

本学では例年学部ごとに年1回保護者懇談会を開催し、保護者の方々への情報提供に努めています。さらに今年度は入学生の保護者の方々に「入学式後に「保護者ガイダンス」を初めて行いました。新生の保護者の方々に「大学での学び」や支援について知っていただくとともに、本学の禁煙に関する取り組みや昨今社会的問題になっている薬物使用防止について共通認識を持ち、それらの取り組みに保護者にも協力いただくことを目的として、「大学で学ぶということ」教育内容授業」学

生活支援について説明を行いました。参加保護者数は看護学部139名、社会福祉学部71名、リハビリテーション学部76名でした。

◆市井理沙さん(実習参加時2年次生) 夏にシンガポールで実習ができたことで作業療法の素晴らしさと大変さの両方を学びました。私は2年次に参加したので、まだ日本での実習経験は全く知らない事だらけでしたが、今回のシンガポールでの実習を体験したことは、これからの日本での実習にも必ず生かせると思います。これから海外研修・実習などに行く人は、どんなチャンスも逃さずどんどん参加すると良いと思います。



看護学部 社会福祉学部

●詳細は順次大学ホームページに掲載いたします。

市民公開講座

今年度より一般の方向けの講座を「市民公開講座」、専門職向けの講座を「公開セミナー」として開催いたします。インターネットまたはFAXでお申し込みください。たくさんの皆様方のご参加をお待ちしています。

住み慣れた町でいつまでも元気で暮らせるように～介護予防とシルバーリハビリ体操～

◆日時：2009年12月19日(土) 10:00～12:00
◆講師：大田 仁史(おおた ひとし)氏

超高齢社会は、人類が経験したことがありません。それを乗り切るには住民が学び、力をつけ、自助・共助の精神で官民一体となって乗り切らなければなりません。シルバーリハビリ体操はその一つです。本講座では、住み慣れた町で元気に暮らすためのお話と、簡単にできるリハビリ体操をご紹介します。



●大田仁史氏プロフィール/茨城県立医療大学名誉教授、前茨城県立医療大学付属病院院長、現在は茨城県立健康プラザ管理者を務める。医学博士。地域リハビリテーションの第一人者として、新聞寄稿やテレビ出演をはじめ、講演会などを通して全国で活躍。著書に「目でみる介護予防 いきいきヘルスいっばつ体操」「老いぬさまでいよう」「地域リハビリテーション原論」など多数。

- プログラム
- 1 大田先生のご講演
 - 2 シルバーリハビリ体操(一緒にやってみましょう)

リレー・フォー・ライフ静岡2009with富士山 開催記念 命のリレー ～がんとともに生きるということ～

◆日時：2009年5月16日(土) 13:30～15:30
◆講師：高田 由香氏(静岡がんセンターよろず相談 社会福祉士)

がん啓発サポートキャンペーン「リレー・フォー・ライフ(RFL)静岡2009with富士山」を応援し、がんへの理解が深まることを願って、リレー・フォー・ライフ静岡実行委員会と連携し、市民公開講座を開催します。静岡がんセンターの高田由香氏による講演や過去のRFLのDVD放映、がん体験者のお話など、多彩な内容を企画しています。

- プログラム
- 1 「がんをめぐる社会情勢と日本のリレー・フォー・ライフ」
リレー・フォー・ライフ静岡実行委員会として今年9月の開催に向け精力的に活動している高田由香氏による講演。今回は国や県のがん対策を含めたがんをめぐる現状に触れながら、リレー・フォー・ライフの目的、理念についてお話しします。
 - 2 過去のRFLの様子を放映
RFL in 新横浜2008や全米でのRFLの様子を録画したDVDを放映します。
 - 3 がん体験者のお話
実際にがんを体験されたがんサバイバーとその家族の皆さん、または遺族の方々から自らの体験とRFLへの思いをお話しします。

リレー・フォー・ライフをご存じですか? がんを恐れない社会を目指す がん啓発サポートキャンペーン

リレー・フォー・ライフ(命のリレー)は、1985年にアメリカ人外科医ががん患者を励ます目的で始めたチャリティイベントです。チームを作って参加し、リレー形式で24時間トラックを歩き続けながら寄付金を募ります。がんは24時間眠らない...がんと闘う人の勇気を讃え、患者・家族、一般の人との連帯感を育む場として世界に大きく広がり、現在では世界20カ国以上で行われています。日本では2006年の茨城県つくば市を皮切りにこれまで9カ所で行われてきました。そして今年2009年9月、初めて静岡県内で開催されます。



リレー・フォー・ライフ静岡2009 with 富士山 2009年9月12日(土) 13日(日) 御殿場市陸上競技場

公開セミナー

- IPW(専門職連携)に関するセミナー ◆講師・日程:調整中
- リーダーシップに関するワークショップ(仮) ◆講師:看護学部 小島通代教授、社会福祉学部 志村健一教授
◆日程:2010年2月頃開催予定
- 看護英語文献講読基礎セミナー 対象看護職者 ◆講師:リハビリテーション学部 平野美津子教授
◆日程:2009年11月頃開催予定

申込方法
インターネット 大学ホームページ→公開講座 (http://www.seirei.ac.jp/koza/) 上記ページからお申込が可能です。画面の案内に従って必要情報を入力後、送信してください。

Fax.053-439-1406
ファックス 氏名(フリガナ)・住所・電話番号・FAX番号・職業(勤務先)・申込講座名をお知らせください。FAX用紙は大学ホームページからダウンロードできます。

村上和香奈さんが
(看護学部4年次生)
焼津市スポーツ賞を
受賞しました。

2008年8月29日(金)～31日(日)に小樽市総合体育館で行われた第43回全日本学生トランポリン競技選手権大会(Cクラス)で優勝した本学看護学部4年次生の村上和香奈さんが、「平成20年度 焼津市スポーツ賞」を受賞しました。村上さんは焼津市出身、平成20年以内に活躍したスポーツ選手として表彰されました。おめでとうございます。

図書館より

地域の
保健医療福祉専門職の
方々向けに
講習会を行います

聖隷クリストファー大学図書館では2008年4月から地域の保健医療福祉の専門職の方々にに対し図書館の開放を行っています。今回、図書への貸し出しだけでなく、本図書館で利用できる各種データベースもご活用いただくために講習会を企画しました。ぜひご参加ください。受講は無料です。

◎日時/6月27日(土)13:30～

◎講習テーマ/

「データベースを利用した医療情報の収集方法入門編」

◎対象/地域の保健医療福祉の専門職者

◎お問合せ先/

聖隷クリストファー大学 図書館 TEL.053-439-1416

2009
CAMPUS
SCHEDULE

2009年度キャンパススケジュール(予定)

4月	2日 健康診断(学部学年により実施日は異なります。10日まで) 3日 入学式 6日 新入生オリエンテーション・新入生セミナー・在学生ガイダンス(8日まで) 6日 防災訓練 9日 春セメスター授業開始 11日 大学院オリエンテーション・ガイダンス 29日 授業日(昭和の日)
5月	1日 創立記念日・休日(昭和の日振替)
7月	11日 社会福祉学部 保護者懇談会 16日 ※月曜日の時間割で授業を行います。 ●春セメスター定期試験 授業の最終回および予備日期間に実施
8月	27日 春セメスター追・再試験(31日まで)
9月	25日 春セメスター卒業式・修了式 ※秋セメスターガイダンスは必要事項のみ時間割の中で行います。
10月	10日 看護学部 保護者懇談会 14日 ※月曜日の時間割で授業を行います。 17日 リハビリテーション学部 保護者懇談会
11月	6日 聖灯祭準備日 7日 聖灯祭 21日 ホームカミングデー 26日 ※月曜日の時間割で授業を行います。
12月	16日 クリスマス礼拝 28日 冬期休業(1月5日まで)
1月	29日 秋セメスター授業終了
2月	●秋セメスター定期試験 授業の最終回および予備日期間に実施 19日 秋セメスター追・再試験(23日まで)
3月	10日 卒業式・修了式、卒業パーティ

学生数 2009年4月3日現在 ()内は男子内数	
看護学部	
1年次生 159(18)	
2年次生 146(21)	
3年次生 156(14)	
4年次生 159(17)	計 620(70)
社会福祉学部	
社会福祉学科	
1年次生 56(18)	
2年次生 70(30)	
3年次生 78(30)	
4年次生 97(34)	
こども教育福祉学科	
1年次生 31(5)	
2年次生 34(6)	計 366(123)
リハビリテーション学部	
理学療法専攻	
1年次生 31(17)	
2年次生 38(23)	
3年次生 32(23)	
4年次生 34(22)	
作業療法専攻	
1年次生 28(5)	
2年次生 41(14)	
3年次生 31(8)	
4年次生 35(11)	
言語聴覚専攻	
1年次生 22(3)	
2年次生 28(2)	
3年次生 22(6)	
4年次生 26(4)	計 368(138)
助産学専攻科	13(-)
大学院博士後期課程保健科学研究科	
1年次生 12(4)	
2年次生 17(5)	計 29(9)
大学院修士課程看護学研究科	
1年次生 7(0)	
2年次生 9(0)	
長期在学コース 1(0)	計 17(0)
大学院修士課程社会福祉学研究科	
1年次生 5(3)	
2年次生 2(0)	
長期在学コース 5(3)	計 12(6)
大学院修士課程リハビリテーション科学研究科	
1年次生 11(9)	
2年次生 11(10)	
長期在学コース 3(2)	計 25(21)
総合計	1450(367)

聖隷クリストファー大学後援会 2008年度決算・2009年度予算について

2009年4月3日(金)に2009年度後援会総会が開催され、下記のとおり2008年度決算及び2009年度予算が承認されました。

2009年度予算は、これまで行っていた海外研修補助をとりやめ、保護者満足度調査で要望が強い国家試験対策費用の補助予算を増額しました。予算編成にあたっては、特定の学部へ支出が偏ることがないように、また収入全額を学生全員に公平に還元できるように考えて、繰越金を除いた単年度の収入・支出のバランスをとれた計画立案をしています。

(単位:円)

科目/項目	2008年度決算	2009年度予算
収入の部		
入会金・会費		
入会金	3,685,000	3,395,000
会費	27,350,000	27,380,000
利息		
預金利息	33,738	30,000
前年度繰越金	6,062,827	6,540,698
収入の部合計	37,131,565	37,345,698
支出の部		
科目/項目	2008年度決算	2009年度予算
教育活動振興援助費		
新入生セミナー援助	1,104,986	1,068,000
海外研修補助費	308,424	0
実習に係る交通費宿泊費等の補助(看護学部、リハビリテーション学部)	2,849,789	2,850,000
国家試験対策講座等に係る費用の補助	1,401,259	1,850,000
福利厚生費		
学生相談室の運営に係る費用の補助	5,575,916	5,750,000
健康診断に係る費用の補助	4,574,036	4,461,083
健康管理センターの充実補助	246,235	300,000
学生の自主活動に係る費用の補助	1,735,833	1,850,000
学生食堂運営費、売店運営費の補助	4,326,535	4,200,000
防犯・交通安全の啓発に係る費用の補助	161,170	161,170
卒業記念品贈呈、及び卒業パーティ開催費	3,106,888	3,201,000
家主懇談会援助	3,000	5,000
学生用コピー機、印刷機費用の補助	2,475,732	2,000,000
会員情報提供費		
大学報印刷費、発送費	1,531,940	1,550,000
保護者懇談会の開催	539,159	600,000
施設設備費		
学生福利厚生設備品の充実費用	216,000	500,000
学生駐車場防犯カメラリース料、大学周辺の防犯灯維持費	146,715	85,802
総務費		
慶弔費	40,000	50,000
保護者満足度調査経費(郵送費)	133,590	160,000
会費納付書等印刷費、郵送費	48,440	60,000
役員会(年3～4回)	65,220	80,000
予備費		6,563,643
次年度繰越金	6,540,698	
支出の部合計	37,131,565	37,345,698

● 聖隷クリストファー大学後援会会長 就任挨拶 ●



今回は会長という大役を仰せつかり、この1年間、保護者の皆様や大学・教職員の方々のご支援を頂きながら、副会長や役員の皆様とともに、精一杯務める所存でございます。どうぞご協力宜しくお願いいたします。

今、世の中は100年に一度の大不況と言われ、大変な状況が続いております。このような経済環境の中、就職状況につきましては、本学卒業生の主な就職先であります医療・福祉業界は、世の中での景気に左右されにくい業界ですので、比較的不況に強いと思われま。一方、大学の教職員や事務局の方々が大変熱心に学生を支援して頂いております。そのため、卒業生は大変評判がよく、本学の建学の精神である「隣人愛」の心を燃やし続ける社会人として活躍しております。学ぶ環境におきましても、学生や保護者の皆様に満足度調査を行い、サービスの改善などに対して、皆様のご意見を反映させる仕組みをつくるなど学生生活や、資格取得、更には就職に対して全学で支援して頂いております。また、保護者の皆様には、年一回開催される保護者懇談会は、直接学業や就職状況の情報を得るには最も良い機会でもあります。どうぞなるべく出席して頂けますようお願いするとともに、最後に後援会に対するご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。 2009年4月 青木 善治

2009年度聖隷クリストファー大学
後援会役員

◇会長/青木善治 ◇副会長/川住康子、関定雄、立石恒雄(大学学生部長)
◇理事/高野宏昭、加藤義一、早瀬壽彦、杉山昌巳、渡邊勇吉、加藤進、土屋達也
◇幹事/大村美智代(大学総務部次長)、高木広幸(大学学生サービスセンター長心得) ◇会計監査/江川和宏、渥美博之

Q1 本誌の全体の印象について○印をつけてお聞かせください。(具体的なご意見もお書きください)

- 1 読みやすい 2 読みにくい

Q2 本誌で興味を持たれた記事に○印をおつけください。(いくつでも)

- 1 健康教室便り 4 私の教育・研究 7 2009年度公開講座一覧 10 お知らせ
2 ボランティア通信 5 新任教員紹介 8 クリストファーニュース
3 [特集]新入生セミナー 6 聖書のことば 9 後援会から

Q3 本誌へのご意見、ご要望、その他大学に関するご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

読者アンケートのお願い

読者の皆様から多数の貴重なご意見をいただきありがとうございます。引き続き学報に関するご意見をいただければ幸いです。お便りお待ちしております。